



まつだあちゃんこどもクリニック

松田 武文 先生 (小児科、新生児内科)

HPV ワクチンキャッチアップ接種は令和6年度末が期限です。

HPV (Human Papilloma Virus) ワクチンは子宮頸がん予防ワクチンで、定期接種は小学6年～高校1年女子が対象です。平成25年より接種勧奨が差し止められ、この間の未接種者に対し令和4年度より3年間 HPV ワクチンキャッチアップ接種が無料実施されていることをご存知でしょうか？



キャッチアップ接種の対象は平成9年度～18年度生まれの HPV ワクチン未接種の女性です。3年間、令和6年度末まで、HPV ワクチンは約半年かけて3回接種するため、遅くとも令和6年夏までに初回接種が必要です。HPV ワクチンは予防可能なウィルスの種類によりは3種類(2、4、9価)あり、9価が最も有効で約90%の子宮頸がんが予防可能で、非常に高額(3回で約9万円)なワクチンです。

子宮頸がんは性交渉による HPV 感染が原因で、感染前の HPV ワクチン接種が重要です。HPV ワクチンは平成25年に定期接種となりましたが、直後の副反応報道により接種勧奨が差し止められ、国内での接種率はほぼゼロになりました。しかし日本の報道以後も海外では HPV ワクチンは安全なワクチンとして積極的に接種され、近年 HPV ワクチンによる子宮頸がん予防効果も多数報告されています。現在世界では子宮頸がんは撲滅可能な疾患とされる中、子宮頸がんが増加しているほぼ唯一の国が日本です。他先進国との大きな違いは HPV ワクチンを積極接種していたか否かの違いです。



平成9年～18年生まれ的女性を子宮頸がんから防ぐには、一刻も早い HPV ワクチンキャッチアップ接種が必要ですが、接種が進んでないことを非常に危惧しています。身近に平成9年～18年度生まれの HPV ワクチン未接種の女性の方がいましたら、早めの接種をお勧めください。

子宮頸がんについて

子宮頸がんは、子宮の入り口にあたりに行けるがんのことです。



子宮頸がんは初期の頃にはほとんど症状のないことが多いですが、進行した場合には下腹部や腰の痛みや血の混じった尿が見られることもあります。このような症状がみられた際には、ためらわずに医療機関を受診してください。



比較的若い世代の方(子宮頸がんになる前段階の)がんを

含めると約38%が20～30代に発病しやすく30後半～40歳がピークとなります。妊娠、出産の年齢になりやすい病気のため女性にとって予防は大変重要になってきます。

予防の効果が期待されているのがヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン接種です。子宮頸がんのほとんどは主に性交渉によって感染する HPV が原因です。子宮頸部に異常がない女性でも10～20%程度の方が HPV に感染していると報告されており、海外では性行為の経験がある女性の50～80%が、生涯一度は HPV に感染すると報告されています。もし感染しても約90%の確率で2年以内にウイルスは自然に排除されます

が、自然に排除されず、数年から数十年にわたって持続的に感染した場合にはがんになることがあると報告されています。

小学校6年～高校1年相当の女子は、公費で HPV ワクチンを接種することができます。副反応報道等により未接種の方も松田先生のお話にあるように接種の機会があります。女性の方ももちろん、男性の方もお子さんやお孫さんなどご家族など近い方に対象の方がいらっしゃる場合、ワクチン接種について話題に挙げられてはいかがでしょうか。

ファミリー薬局

薬剤師 壽 聖暁

ファミリー薬局

〒015-0843 由利本荘市東梵天173-1
TEL.0184-28-0800 FAX.0184-23-8200

市内で唯一の秋田県にあるファミリー薬局。
自然豊かな鳥海山のふもと由利本荘市で元気に営業中！

